

<報告資料一覧>

『ボートレース若松施設整備事業』に係る公共事業評価の
市民意見募集結果及び基本計画(案)について(報告)

- 1 ボートレース若松施設整備事業に係る公共事業評価の
市民意見募集結果 (報告)
- 2 ボートレース若松施設整備に関する基本計画 (案) ~概要版~
- 3 公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応 (別紙1)
- 4 提出された市民意見の概要及びこれに対する本市の考え方 (別紙2)
- 5 公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた
市の対応方針 (別紙3)
- 6 ボートレース若松施設整備に関する基本計画 (案)

◇問い合わせ先
公営競技局 ボートレース事業課
電話：093-791-3400
担当：山田、窪田

ボートレース若松施設整備事業に係る公共事業評価の 市民意見募集結果（報告）

（北九州市公共事業評価に関する検討会議及び市民意見の募集結果）

1 北九州市公共事業評価に関する検討会議

（1）検討内容

公共事業事前評価調書（事前評価1）を提示し、「事業の必要性」を中心に検討。

（2）検討結果

令和3年8月5日、事業実施に向けた準備を継続することについて、すべての構成員から「異議はない」との意見。

検討会議における留意点とその対応については、別紙1を参照。

2 市民意見の募集結果

（1）募集期間

令和3年8月23日（月）から9月21日（火）まで

（2）資料の配布・閲覧場所

各区役所・出張所等の市の施設 及び 北九州市ホームページ

（3）意見提出者数 13人

電子メール	郵送	FAX	持参
13人	0人	0人	0人

（4）提出された意見数 56件

内訳	件数
1 施設整備に関するもの	51件
2 事業の費用に関するもの	1件
3 工事に関するもの	1件
4 運営に関するもの	3件

(5) 主な意見（全体意見は別紙2を参照）

◇施設整備に関するもの

- ・新たな遊興施設として、地域活性化の一因になることを期待したい。
- ・女性やファミリーが安心して来られる様、治安や衛生的な環境について積極的に取り組んで欲しい。
- ・県外からの来場者も多く見込めるため、北九州らしさを出す工夫をして欲しい。
- ・自然や四季の花々があり、乳幼児が安全にのんびり過ごせる屋外型のエリアが欲しい。
- ・遊具は多くなくて良いので、子どもが創造的に遊べる場が良い。
- ・スケボーなどスポーツが体験できる施設が欲しい。

◇事業の費用に関するもの

- ・一般会計からの繰出金のない整備規模・計画を入念に検討し進めていただきたい。

◇運営に関するもの

- ・地元選手を応援することは観戦のモチベーションになり、ボートレースファンのすそ野を広げることにもつながると思うので、地元選手の情報を紹介する写真入りパネルを設置してはどうか。

3 検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針（詳細は別紙3を参照）

検討会議では、本事業を計画通りに進めていくことについて、出席したすべての構成員が「異議はない」との意見であった。ただし、具体的な事業の進行にあたって、留意すべき点が意見として挙げられた。

これらの留意点を踏まえて「市の対応方針（案）」及び「ボートレース若松施設整備事業（案）」について、市民意見を募集したところ、特に反対する意見はなかったことから、検討会議で挙げられた留意点としての意見や、市民からの意見も踏まえ、「ボートレース若松施設整備に関する基本計画（案）」を別添のとおり策定した。

今後、事業実施に向けた準備を継続することとし、事業内容がより具体化された後に、事前評価2を行うこととする。

ボートレース若松施設整備に関する基本計画(案)～概要版～

■ 基本的な考え方

(本文 p01～p18)

(1) 事業の背景

- ① 本場入場者数の減少と新規ファンの獲得
- ② 西スタンド棟の老朽化とアフターコロナの新しい観戦のかたち
- ③ ボートレース業界全体での取り組み「ボートレースパーク化構想」

(2) 事業の基本的な考え方

- ・ 本市公営競技事業は、10年間を計画期間とする経営計画「北九州市公営競技事業経営戦略」を策定しています。
- ・ 本戦略では、中長期的な視点を踏まえた経営を行っていくための、「企業理念」と「目指すべき将来像」を掲げています。

《企業理念》小倉競輪・ボートレース若松は、事業の収益金で、将来にわたり北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していきます。

- 《目指すべき将来像》
- I 選ばれるレース場
 - II 健全な運営・信頼されるレース場
 - III 親しまれるレース場

- ・ 施設改修の基本計画の策定に当たっては、本戦略の「企業理念」と「目指すべき将来像」を踏まえ、次の3点を基本的な考え方としました。

基本的な考え方①：市民が企業理念をイメージできるようなメッセージ性をエリア全体に持たせること

基本的な考え方②：経営戦略の3つの将来像を実現すること

基本的な考え方③：「ボートレースパーク化」を実現すること

(3) 基本計画の3つのテーマ

- ・ 基本計画において、「学びの視点」と、北九州市ならではの「地域資源の視点」から、《スポーツ アート&デザイン 食》の3つのテーマを設定。

『スポーツ』

「スポーツ」を体感する楽しさを提供し、「育ち」「学び」を創出

『アート&デザイン』

北九州の文化で彩る、人と環境に配慮した空間をデザイン

『食』

気軽に心地よく滞在していただくための時間を「食」で創出

◎これら3つのテーマを踏まえ、ターゲット層を整理したうえで、今回整備する主要機能を整理しました。(本文 p08～p14 参照)


■ 西スタンド棟の改修

(本文 p20~p28)

既存ファンのニーズに応えながら、女性やファミリーなど新たなファン層を開拓するアミューズメント空間へリニューアルします。

4F 次世代のレースファン獲得につながるスカイラウンジ (有料観覧席)

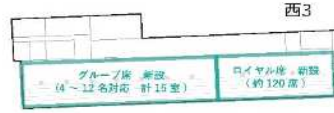
バーカウンターを備え、ナイトレースの観戦にも適した使場がない体験価値を提供。
コアファンを満足させるだけでなく、幅広いファン層にポートレースの新しい楽しみ方を提供する空間内に、展示・ディスプレイ等を計画。



西4

3F ファミリーやファン同士の交流を促す有料観覧エリア

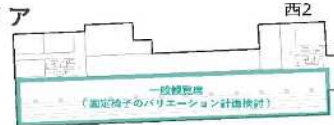
現状の特別観覧席 (現状 800 席) の座席数を改め、次世代ロイヤル席約120席とグループ席としての個室 15 室を計画する。
(たたみシート、掘りごたつブース等、複数バリエーション検討)
※予定避難所としての活用も想定。



西3

2F 安心してレースに集中できるコアファン向け一般観覧エリア


アフターコロナに配慮して、現状 1348 席の客席数を見直し、ゆとりある観覧席の配置を計画。
従来の固定椅子を並べるだけのレイアウト形式ではなく、幅広い椅子やテーブルを組み合わせた席など、一般観覧席に対してもバリエーションを検討する。



西2

1F リニューアルの顔として、自然を取り入れた開放的な一般観覧エリア

施設のイメージアップを図る為、山と海に囲まれた自然をモチーフに競走水面側にウォーターエリアと駐車場側に地景貢献エリアを計画。
ポートレースパーク化に連動して、建物内も自然を感じる開放的な空間デザインを計画。

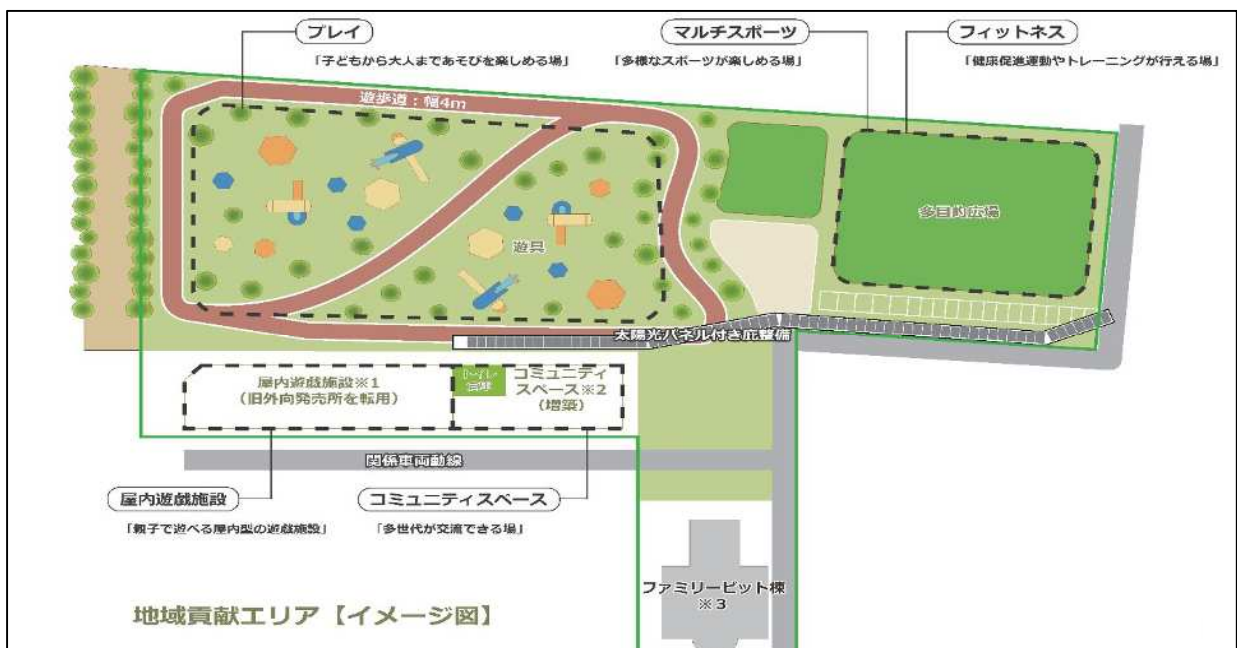


中央入場門
西1
イベントホール
一般観覧席

■ 地域貢献エリアの新設

(本文 p30~p34)

子どもから大人まで幅広い世代を対象に、東スタンド棟前の駐車場を活用し、誰もが楽しめる「コミュニティパーク」として整備します。



■ 事業スケジュール

(本文 p42)



*上記スケジュールは、基本設計及び実施設計段階等において柔軟に検討していくものとします。

■ 事業費概算

(本文 p44)

事業費財源は、令和4年度までの事業収益を積み立てて確保することとし、企業債を発行しないため、将来にわたる負担は発生しません。

また、北九州市公営競技事業経営戦略にて目標に掲げた一般会計繰出金への影響も生じない見通しです。

【百万円】

全体 事業費 (概算)	6,611		事業費 財源 内訳	ポートレース 事業収益	一般財源 (税等)	BR振興会 助成金	国補助金 (環境関連)	企業債
	【内訳】	西スタンド棟他の改修		5,085	5,085	0	0	検討中
	地域貢献エリアの新設	1,200	907	0	293	検討中	0	
	設計費等	326	326	0	0	検討中	0	

公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応
(対象事業：ポートレース若松施設整備事業)

	公共事業評価に関する 検討会議での意見	市の対応方針
(1) 施設改修のマネジ メントについ て	今回の事業に係わらず、施設全体の改修マネジメントの見直しをお願いしたい。	施設を適切に管理するためには、計画的に修繕や改修を行う必要がある。 今後も中長期整備計画を含め、状況に応じて改修マネジメントの見直しを行っていく。
(2) 改修内容につい て	改修にあたって、若松らしさや北九州らしさを出しつつ、収益確保も行えるように検討してほしい。	環境に配慮した北九州らしい魅力ある施設を整備することで、選ばれるレース場を目指すとともに、ランニングコストを抑え、継続的な収益確保ができるような施設改修を検討する。
(3) 施設改修方法に ついて	強風や塩害など厳しいロケーションであることを念頭に、耐久性のある素材や工法等の活用と費用面とのバランスを考えていただきたい。その際、見積りを正確にお願いしたい。	利用者の安全性を確保することが重要であるため、耐久性は必要だが、経済性とのバランスを考慮しながら、今後基本設計を進める中で検討する。
(4) 地域貢献エリア のゾーニングに ついて	安全・安心な施設運営ができるように考慮しつつ、利用者のニーズに合ったエリアとなるように、ゾーニングをしっかりと検討してほしい。	道路や駐車場に面したエリアとなるため、まずは安全に配慮するとともに、ターゲット別マーケティングに基づいた、来場者にとって魅力的で利用しやすい施設となるよう、ゾーニングを検討する。
(5) 施設の多角的な 利用について	既存施設・新施設について、多角的な利用を検討してほしい。	今後、スポーツをテーマとしたエリアや多世代が交流できる場の検討を進めるにあたり、学びの場や防災施設など多角的な利用方法を検討する。
(6) 市民へのPRに ついて	市民の理解を得るために、防災拠点としての位置付けや、市民の憩いの場であることなどをしっかりとPRする工夫をしてほしい。	ポートレースの収益金や施設が、市民生活に寄与していると分かり易く理解していただけるよう、広報活動に取り組む。

**提出された市民意見の概要及びこれに対する本市の考え方
(対象事業：ボートレース若松施設整備事業)**

別紙 2

以下に市民意見の概要及び意見に対する市の考え方を次のとおり公表します。

■意見募集期間

令和3年8月23日(月)から令和3年9月21日(火)まで

■意見提出状況

(1) 提出者：13人(電子メール13人)

(2) 提出意見数：56件

1 施設整備に関するもの・・・51件

意見の概要	本市の考え方	方針・計画への反映
施設老朽化による西スタンド改修及び地域貢献エリア新設の計画を是非実現して欲しい。 新たな遊興施設として、地域活性化の一因になることを期待したい。	多くの人が集う、地域にとってかけがえのない施設となるよう、事業の推進に努めてまいります。	—
ボートレース鳴門にはバスケットコート、温泉施設等が併設されているが、同様の施設と考えているのか。 また、温泉施設は検討されているのか。	施設整備は、各場の地域性なども考慮して検討を行っており、今後、基本設計等を行う中で施設内容について検討いたします。 なお、温泉施設については整備の予定はありません。	今後の参考とする。
入浴施設が欲しい。 アイススケートエリアが欲しい。	整備の予定はありません。	—
女性やファミリーが安心して来られる様、治安や衛生的な環境について積極的に取り組んでほしい。 建物が古く、近寄りがたいイメージが強い。改修後は、外観は明るく、入りやすいイメージにして欲しい。 改修工事中は利用できる場所が少なくなるため、既存ファンが離れない様な配慮が必要。 県外からの来場者も多く見込めるため、北九州らしさを出す工夫をして欲しい。 多くの親子が繰り返し訪れ、のびのびと遊ぶことで学びが深まるような、クオリティの高い文化的空間を提供することで、イメージアップを図ることができる。 地域貢献エリアの事業推進にあたり、子供達や様々な世代の学生などの意見交換の場が欲しい。 子供達が、屋外でのびのび遊び、学びが深まる文化的空間が欲しい。 三輪車や自転車の練習ができるエリア及び自転車や自動車の安全教育ができる場所が欲しい。 自然や四季の花々があり、乳幼児が安全にのんびり過ごせる屋外型のエリアが欲しい。 奥洞海駅前の立地を生かし、高校生などの若者が学べる場や活動できる場所が欲しい。 ペット用の避難所を検討して欲しい。 インラインスケートエリア、キックボードエリアが欲しい。	施設整備を具体化するにあたって、費用対効果、敷地の有効活用、効率的な管理等を総合的に考慮したうえで、基本設計等を進めるにあたり参考といたします。	今後の参考とする。

バスケットボールやサッカーエリアは、必要ない。	<p>施設整備を具体化するにあたって、費用対効果、敷地の有効活用、効率的な管理等を総合的に考慮したうえで、基本設計等を進めるにあたり参考といたします。</p>	<p>今後の参考とする。</p>
地域貢献エリアのデザインは、デザインの専門家の意見を聞いて欲しい。		
小倉競馬場のキッズプラザの様な施設が欲しい。		
小学校高学年が楽しめるポーネルンドの遊び場が欲しい。		
子どもが遊べるサーキット場が欲しい。		
おしゃれな道の駅的な施設を併設して欲しい。		
スケボーのコースが欲しい。		
広い屋外屋根付き多目的スペースが欲しい。		
子どもが創造的に遊べるポーネルンドの屋外遊び場が欲しい。		
安全に遊べる砂場や手足が洗える洗い場が欲しい。		
お絵描きや工作ができる屋内スペースが欲しい。		
綺麗なお手洗い、休憩スペース、カフェが併設されると手ぶらで出かけることができる。		
子供食堂など炊き出し活動ができる設備が欲しい。		
屋内で多世代が運動できるトランポリンエリアが欲しい。		
老若男女が楽しめる工夫、ゾーニングを検討して欲しい。		
スケボー、スポーツクライミング、BMXなど、オリンピック新種目のスポーツが体験できる施設が欲しい。		
キャンプやピクニックをしながら、ゆっくりレース観戦ができるエリアが欲しい。		
ボートやカヌー、サップができるエリアが欲しい。		
屋外で遊べる公園やアスレチックなど、小学生も遊べるような施設がもっと欲しい。		
大学生や高校生など、地域の若者が主体的に活動できる拠点が欲しい。		
木製のアスレチック、ふわふわなどの遊具が欲しい。		
若者や大人、子供たちが一緒に遊べる水遊びゾーンが欲しい。		
シンボルツリー、木登りができる木、日陰ができる樹木などが欲しい。		
防災訓練キャンプ活動ができるエリアが欲しい。		
お年寄りの健康器具は必要。		
スポーツがテーマではなく、集いと憩いをテーマにして欲しい。		
綺麗なトイレなどアクセスしやすい空間、0歳児も一緒に安心して遊びに来れる場所を目標にして欲しい。		

自転車の練習ができる場所が欲しい。	施設整備を具体化するにあたって、費用対効果、敷地の有効活用、効率的な管理等を総合的に考慮したうえで、基本設計等を進めるにあたり参考といたします。	今後の参考とする。
スケートボード、マウンテンバイクのエリアは必要ない。		
築山のある緑地、木陰のある大きな木が必要。		
カヌー、子ども向けのペアカヌー、サップ体験ができるエリアが欲しい。		
定期的に内容が変わるお仕事体験できるような、学びにつながるコンテンツを有する施設が欲しい。		
キッチンカーが入るといい。	常設としては難しいと考えますが、イベントなどの実施で検討いたします。	—
子ども祭り、火おこしなど、火育活動ができるエリアを整備し、防災拠点としての機能も発揮して欲しい。		

2 事業の費用に関するもの・・・1件

意見の概要	本市の考え方	方針・計画への反映
採算性を精査し、一般会計からの繰出金のない整備規模・計画を入念に検討し進めていただきたい。	事業費財源は、令和4年度までの事業収益を積み立てて確保することとしているため、一般会計からの繰出金は発生しません。	基本計画に反映済み。

3 工事に関するもの・・・1件

意見の概要	本市の考え方	方針・計画への反映
長期間の改修工事であるため、近隣の住民にも配慮願いたい。	工事に係る騒音対策や安全性の確保など、十分に配慮して進めてまいります。	—

4 運営に関するもの・・・3件

意見の概要	本市の考え方	方針・計画への反映
地元選手を応援することは観戦のモチベーションになり、ボートレースファンのすそ野を広げることにもつながると思うので、地元選手の情報を紹介する写真入りパネルを設置してはどうか。	地元の選手を知っていただくことは、地元の子どもたちがボートレーサーを目指すきっかけにもなると考えていますので、地元選手の紹介コーナーの設置について検討いたします。	今後の参考とする。
小倉駅、戸畑駅、黒崎駅などから無料バスが運行されているが、車両が古く、乗り心地も良くないため、観光バスタイプの車両へ変更して欲しい。	費用対効果を考えると早急に観光バスタイプへ変更することは難しいですが、施設改修により新たな来場者にとっても来場しやすいアクセス方法等を検討いたします。	今後の参考とする。
レース場に足を運んでもらうためには、ボートレースそのものの面白さを伝える必要がある。そのため初心者向けにレースの楽しみ方や予想の方法、投票券の購入方法などをわかりやすく解説するWebコンテンツを制作してはどうか。	来場者を増やすためには新規ファンの獲得が重要であると認識していますので、今後もさまざまな方法で初心者向けの情報発信に取り組んでまいります。	今後の参考とする。

公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針

(対象事業：ボートレース若松施設整備事業)

【対応方針】

事業実施に向けた準備を継続することとし、事業内容がより具体化された後に、事前評価2を行うこととする。

【対応方針決定の理由】

ボートレース事業は、地方財政の改善を図ることなどを目的に、モーターボート競走法に基づき実施されている。

本市のボートレース事業であるボートレース若松は、独立採算で特別会計を設けて実施し、その収益の一部を一般会計へ繰り出している。

この一般会計繰出金は、本市の市民生活の充実・利便性の向上等に寄与しており、今後とも安定的かつ継続的な確保が求められている。

また、平成30年4月からは地方公営企業法を適用するなど、更なる経営の強化を図りながら事業を実施しているところである。

今回検討している「ボートレース若松施設整備事業」は、主に、築25年以上が経過し、設備の更新時期を迎え、建物の老朽化も進行している西スタンド棟の改修を行うものである。

また、年間20万人以上の来場者の安全の確保はもとより、新たなファン層を開拓するためには、アミューズメント空間へとリニューアルし、魅力的な集客施設としての整備が必要である。

加えて、ボートレース業界では、多くの人が集う、地域にとってかけがえのない場所を目指す「ボートレースパーク化」を推進しており、ボートレース若松の経営戦略に掲げる「親しまれるレース場」の実現に向け、子どもから大人まで幅広い世代を対象にスポーツをテーマとした地域貢献エリアの新設を検討している。

施設整備の財源は、ボートレース事業の収益により令和4年度までに確保できることが見込まれ、税等の一般財源や企業債は予定していない。また、地域貢献エリアの新設にあたっては、遊休スペースとなっている駐車場の一部を有効活用することとしている。

今回の施設整備は、ボートレース事業継続に重要な投資であるとともに、ビッグレースの誘致にもつながり、収益と繰出金の双方に増加効果が見込まれる。

公共事業評価に関する検討会議では、本事業を計画通り進めていくことについて、出席したすべての構成員が「異議はない」との意見であった。ただし、具体的な事業の進行にあたって、留意すべき点が意見として挙げられた。

これらの留意点を踏まえて「市の対応方針（案）」及び「ボートレース若松施設整備事業（案）」について市民意見を募集したところ、反対する意見はなかった。

今後、検討会議で挙げられた留意点としての意見や、市民からの意見も踏まえ、西スタンド棟他の大規模改修と地域貢献エリアの新設に関する検討を進め、事業内容がより具体化された後に、事前評価2を行うこととする。

ボートレース若松施設整備に関する基本計画(案)

令和3年9月
北九州市公営競技局
ボートレース事業課

目次

01 基本的な考え方

1-1 事業の背景	P-01
1-2 事業の基本的な考え方	P-02
1-3 基本計画の3つのテーマ	P-04
1-4 基本コンセプトと3つのテーマ	P-06
1-5 ターゲットの整理と施設機能の展開について	P-08
1-6 敷地ゾーニングの考え方	P-16

02 西スタンド棟の改修

2-1 基本的な改修方針について	P-20
2-2 各フロアのリニューアルイメージ	P-22
2-3 外観イメージパース	P-26

03 地域貢献エリアの新設

3-1 基本的な整備方針について	P-30
3-2 ファミリーピット棟の活用について	P-32

04 基本設計に向けた課題

4-1 西スタンド棟改修の課題	P-36
4-2 施設改修方針案比較	P-38
4-3 地域貢献エリア新設の課題	P-40

05 事業スケジュール

5-1 事業スケジュール	P-42
--------------	------

06 事業費概算

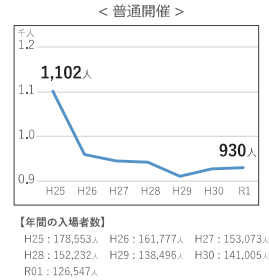
6-1 事業費概算	P-44
-----------	------

01 基本的な考え方



(1) 本場入場者数の減少と新規ファンの獲得

ボートレース若松では、近年、舟券の発売額が好調である一方、本場の1日あたりの入場者数については、減少傾向となっています。本場入場者数の減少は、これまで本場が担ってきた新規ファンの創出機能が低下していることを意味し、将来の事業継続の面で大きな課題となっています。今後、新規ファンを獲得していくためにも、ボートレース場に来場し、実際にレースを観戦し、ボートレースの魅力を感じてもらおう一方で、ボートレースの新しい楽しみ方を提供していく取り組みが求められています。



(2) 西スタンド棟の老朽化とアフターコロナの新しい観戦のかたち

ボートレース若松では、平成28年10月に東スタンドの改修を行っており、施設改修の長期的視点から、東スタンドに引き続き、西スタンド棟の改修にも着手する予定としていました。西スタンド棟は築25年以上が経過し、雨漏り対策が必要な箇所増加や、改修を要する諸設備が散見されるほか、強風時には外壁のパネルが一部剥がれるなど、老朽化が著しい状態となっています。さらに、COVID-19(新型コロナウイルス)後の社会変化も見据え、ソーシャルディスタンスの考え方を踏まえた新しい観戦スタイルへの対応が求められています。年間約20万人のお客様に安心して来場していただくため、安全確保の面からも、緊急かつ抜本的な改修が必要です。

(3) ボートレース業界全体での取り組み「ボートレースパーク化構想」

業界の中央団体であるBOATRACE振興会が、ボートレース場の施設・敷地を有効活用し、スポーツ・文化の発信基地や地域住民の健康増進・憩いの場として地域との共生を目指す「ボートレースパーク化構想」を打ち出しています。ボートレースパーク化による本場の活性化が、将来を見据えた持続可能な戦略であることを踏まえ、本事業の基本計画策定における基本的な考え方として位置づける必要があります。

施設全体を対象とした基本的な整備方針

西スタンド棟の改修にあたりボートレース若松内の施設全体の在り方を戦略的に見直します。
なお、省エネ視点の導入や再生可能エネルギーの活用を積極的に進めます。

西スタンド棟のリニューアル

既存ファンの満足度向上と新規ファン層の拡大を図り、本場来場者を増加させます。

地域貢献エリアの新設

子どもから大人まで気軽に安心して利用できる施設としてイメージチェンジを行います。

各施設・設備の再整備&改修

遊休スペースの活用をはじめ、施設全体としてのイメージアップを図り、地域に愛される、安全・安心な施設づくりを目指します。



(1) 基本的な考え方

本市公営競技事業（競輪及びボートレース）は、平成30年4月に地方公営企業法を全部適用して地方公営企業となり、10年間を計画期間とする経営計画「北九州市公営競技事業経営戦略」を策定しています。本戦略では、中長期的な視点を踏まえた経営を行っていくための「企業理念」と「目指すべき将来像」を掲げています。また、本戦略の策定に当たっては、ボートレース業界全体で推進するボートレースパーク化による本場活性化が将来を見据えた持続可能な取り組みであると踏まえ、この将来像を横断する主要な取り組みとして位置づけています。

このため、施設整備に関する基本計画の策定にあたっては、次の3点を目指すことを基本的な考え方とします。

基本的な考え方①

市民が企業理念をイメージできるようなメッセージ性をエリア全体に持たせること

企業理念

小倉競輪・ボートレース若松は、事業の収益金で、将来にわたり北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していきます。

企業理念を持続的に実践していくためのSDGs経営宣言

SDGsを公営競技事業の経営に取り入れ、「社会的課題の解決」と「収益の獲得」が両立した持続可能な経営の実現にチャレンジしていくこととし、2030年の未来像を設定しています。

市民からの信頼の獲得

将来も必要とされる

職員が働きがいを実感できる

基本的な考え方②

経営戦略の3つの将来像を実現すること

目指すべき将来像

将来像Ⅰ

選ばれる
レース場

【売上】

将来像Ⅱ

健全な運営・
信頼される
レース場

【運営・財務】

将来像Ⅲ

親しまれる
レース場

【地域・社会貢献】



基本的な考え方③

「ボートレースパーク化」を実現すること

ボートレースパーク化

ボートレース場の施設・敷地を有効活用し、スポーツ・文化の発信基地や地域住民の健康増進・憩いの場として地域との共生を目指します。



ボートレース若松の施設整備に関する基本計画においては、
 普遍的な「学びの視点」と、北九州市ならではの「地域資源の視点」から3つのテーマを設定。
 「スポーツ」「アート&デザイン」「食」の切り口から、他場とは一線を画したボートレース場のあり方を考える。

スポーツ

普遍的な「学び」の視点から

身体を動かすこと、基礎的な体力を養うことは、豊かな人生を送るために欠かせない行動である。また、様々なスポーツ、あるいは簡単な動作であっても、それを体験することで新たな発見、感動につながることもある。多くの人にスポーツを楽しんでもらう機会を提供することで、生活の中の「やりがい」や「潤い」が得られる場とする。

地域資源の視点から

ボートレース若松は、市民にとっての直接的な地域振興資源であると同時に、スポーツ競技としてのボートレースの認知を高めることで、新たなファン層を獲得していく役割を担っている。また、ほかのスポーツとも連携することで地域の振興、発展につながるような取り組みに積極的に参画していく。

アート&デザイン

普遍的な「学び」の視点から

「アート&デザイン」は、単に色・形を考える設計や芸術作品という意味だけでなく、既存の考え方にとらわれず新しいアイデアを生み出していく「創造的なプロセス」を含む概念である。人口減少、高齢化社会などの課題を抱え、AI時代の到来、気候変動の深刻化など未来予測が困難な時代の中で、課題解決や革新的なアイデアを生み出す、アート&デザインによる思考力・創造力の活用が求められる。

地域資源の視点から

北九州市では官営八幡製鐵所の操業開始以降、多くのものづくり産業が生まれ、都市が発展した。現在も多くの世界的な企業が存在する。北九州市には、そうした産業都市としての長い歴史と、大陸との交易の窓口であった地勢に育まれた特徴的な地域文化が根付いている。市民のシビックプライドの醸成に寄与するとともに、他場との差別化を図るためにも、北九州の歴史、産業、文化を紹介、発信する機能を持つボートレース場とする。

食

普遍的な「学び」の視点から

食はボートレース場の魅力を左右する大きな要因である。生きる上での根源である食事を支える農業や漁業、自然環境について学ぶことで、毎日の生活を豊かなものにする事ができるとの考えから、ボートレース若松における
 ①食を活用したコミュニティの形成
 ②地域の食文化、食材の情報発信
 ③食育という観点からの学習機会の提供
 などのしくみづくりを考える。

地域資源の視点から

地元若松は、キャベツやトマトといったブランド農産物のほか、海産物など新鮮な食材に恵まれた地域である。ボートレース若松で提供する食事に地元食材を積極的に活用することで、地元産業の振興につなげるとともに、『食事がおいしいボートレース若松』というブランドイメージを確立する。また、地域貢献活動の一環として取り組んでいる「こども食堂」の活動を拡充する中で、地元産品の消費に貢献しつつ、食育にもつなげていく。



(1) 基本コンセプトの整理と3つのテーマの展開について

経営戦略で掲げる3つの目指すべき将来像を基本計画においては以下のように解釈し、3つのテーマに照らし合わせながら、それぞれの将来像を実現するための各テーマごとの役割を定義します。

目指すべき将来像

基本計画

< 基本計画における3つの将来像 >

< 3つのテーマ >

< 将来像を実現するための役割 >

将来像Ⅰ

選ばれる
レース場
【売上】

将来像Ⅱ

健全な運営・
信頼される
レース場
【運営・財務】

将来像Ⅲ

親しまれる
レース場
【地域・社会貢献】

モータースポーツの
楽しさを体験できる
レース場

環境にやさしい
持続可能な
運営を追求していく
レース場

育ちと学びの
楽しさを体験できる
地域と共に成長する
レース場

① 『スポーツ』

「スポーツ」を体験する楽しさを提供し、
「育ち」「学び」を創出していきます。

② 『アート&デザイン』

北九州の文化で彩る、人と環境に配慮した
空間をデザインしていきます。

③ 『食』

気軽に心地よく滞在していただくための時間を
「食」で創出していきます。

将来像Ⅰの実現

水上のモータースポーツの迫力を体感することができる
スポーツ施設

将来像Ⅲの実現

子どもから高齢者まで、運動が苦手でも身体に悩みを抱
えていても、誰でも楽しめるスタイルのスポーツの場を
提供する

将来像Ⅲの実現

スポーツを体験することで得られる様々な学びからの成
長を応援する

将来像Ⅱの実現

アート&デザインで個々の施設の快適性や機能性、
環境性等のクオリティを高める

将来像Ⅲの実現

来場者が北九州市で伝承されてきた文化や歴史を感じ、
学べる工夫を散りばめる

将来像Ⅲの実現

エリア全体の統一感やゾーニング、景観等にアート&
デザインを取り入れることでイメージアップを図る

将来像Ⅰの実現

家族団らんや仲間や友人との交流、ひとりでゆっくりと
過ごす、食事を楽しむなど、様々な時間の過ごし方を食
の機会を通して提供する

将来像Ⅲの実現

将来像Ⅱの実現

地産地消、食品ロス防止等でSDGsを支援する

将来像Ⅲの実現



(1) ターゲットの整理

前項で定めた3つのテーマ「スポーツ」「アート&デザイン」「食」の役割を踏まえた具体的な機能を検討していくにあたり、より効果的に訴求すべきターゲットを設定します。はじめに、既存顧客の分析から、潜在顧客・今後獲得すべき顧客の抽出を行います。

ボートレース参加状況別セグメント

	ベテラン層		初心者層		興味層	興味なし 来場層	興味なし 未来場層
	来場	未来場 電話・ネット・場外	来場	未来場 電話・ネット・場外		わかわくらんど レッドロック	
60~代	●						▲
50代	●						▲
40代	○	●				○	▲
30代	○	●	○	●	▲	●	▲
20代			○	●	▲		▲
10代						○	▲
00代						●	▲

① VIP 利用

高額投票をしながら
ボートレース観戦を楽しむ層

今まで以上に快適な観覧スペースを整備し、満足度の向上を図る。

① 現ボートレース場の
ボリューム層

50代以上の年齢層で、
これまでのボートレース場の
雰囲気を楽しむ層

慣れ親しんだ観戦スタイルに配慮しつつ、より快適にお客様が楽しめるエリアを確保。

加えて、ボートレース場を訪れたついでに体を動かしたり、食事をとったりできる機能を充足させることで、より長く滞在していただき、満足度向上を図る。

② 来場頻度の少ない
ボートレースコアファン

ボートレースファンでネット投票を行うベテラン層

有料エリアの充実や観覧席をリニューアルするなど、非日常的な雰囲気、空間を演出する中でボートレースの新しい楽しみ方を提示し、ボートレース場に足を運んでもらう機会を増やす。休日は家族で訪れるなど、テーマパーク化を図ることで、既存顧客からの利用者拡大を図る。

③ 来場頻度の少ない
ボートレースビギナーファン

ボートレースファンでネット投票を行う初心者層

よりボートレースに興味を持ってもらうしかけ（ボートレースをテーマにしたコンテンツ）やグループで楽しめるグループ席、サービスが充実した有料指定席を充実させることで足を運んでもらうきっかけをつくる。

⑤ 未来場者層

新たな施設機能を求めて来場される層

これまでのボートレース場のイメージではなく、新しい顔で入りやすさをアピールし新規顧客の獲得を目指す。日常利用しやすい食や、周辺施設との連携を図る文化機能など、ボートレース以外の目的を持って来場する層を確実に集客し、来場する中でボートレースに興味を持っていただく。

④ わかわくらんど利用層

30代の親と未就学児を中心とした
利用層

親世代、子ども世代の成長に応じた長期的なタームで楽しめる場所へ改修し、現顧客層の長期利用を目指す。

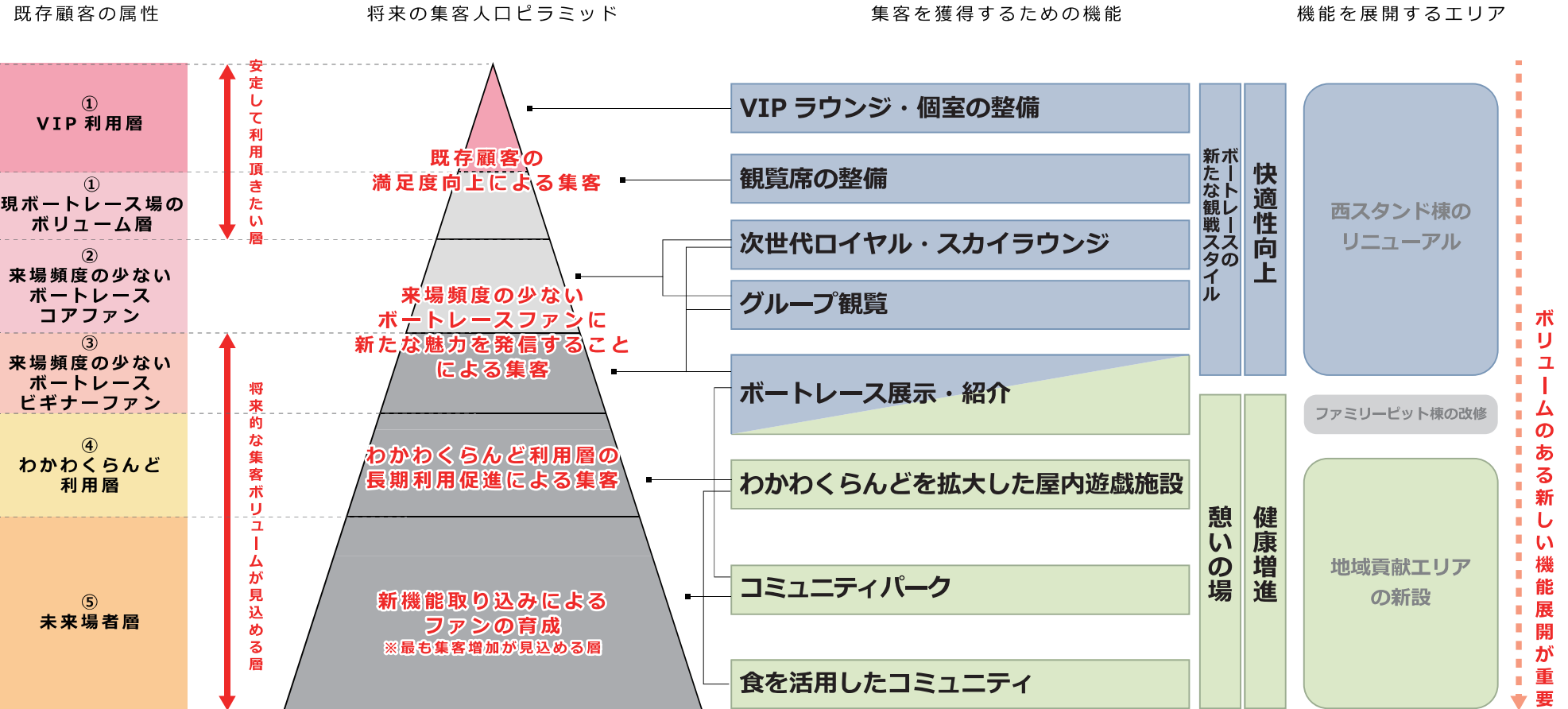
● 既存顧客 ▲ 潜在顧客 ○ 獲得顧客



(2) ターゲットの整理から導く機能

既存顧客の分析からターゲットを設定し、具体的な整備方針・機能ボリュームの検討へつなげます。

将来的な集客ボリュームが見込めるターゲット層を踏まえて、3つのテーマ展開を意識した機能の設定・ボリュームの検討を行います。



- 既存機能を活かしながら安定的に集客を獲得していきたいターゲット
- 戦略的に集客を獲得していきたいターゲット